

## 【シンポジウム報告】

### 第 41 回日本基礎老化学会シンポジウム WEB 開催

三浦 ゆり

東京都健康長寿医療センター研究所

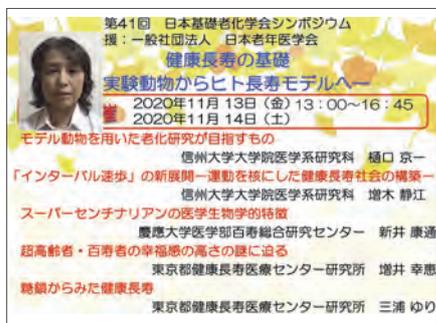
本来ならば、松本で行われる予定だった第 41 回日本基礎老化学会シンポジウムは、COVID-19 の影響で先が見通せない中、初めての試みである WEB 上での開催とし、11 月 13 日（金）14 日（土）の両日、YouTube による配信を行った。何もかもが初めてで手探りの中、快くご講演を引き受けて下さった演者の先生方と多くの参加者の方々に、まずは御礼申し上げたい。

本シンポジウムは東京都健康長寿医療センター研究所の堀田晴美先生と筆者が世話人を務め、「健康長寿の基礎 - 実験動物からヒト長寿モデルへ -」をテーマに、モデル動物を用いた老化研究からヒトへの介入研究、そして超百寿者（105 歳以上）の医学的、心理学的、生化学的アプローチによる観察研究と、基礎老化研究のゴールを見据えた幅広いテーマで 5 名の演者が講演を行った。参加者は 160 名を超え、その中で非学会員が約 50% を占めており、基礎老化学会を広く知ってもらいやすくなったのではないかと考えている。

まず、信州大学・樋口京一先生が、さまざまな老化モデル動物を用いた老化研究とマウスを用いたインターバル速歩の効果や分子メカニズムについて講演された。ヒトでは明らかにできない詳細な分子メカニズムを、実験動物を用いることで初めて明らかにできる、という言葉に、改めて基礎老化研究の重要性を感じた視聴者も多かったものと思う。次に、信州大学・増木静江先生が、高齢者に対するインターバル速歩の効果とトレーニング中の乳製品摂取が生活習慣病や介護予防に効果的であることを示された。老親にも聞かせたいような具体的な話

から、効果を裏付ける遺伝子のメチル化まで調べておられ、研究の幅広さに感銘を受けた。その次からは、健康長寿を達成したと考えられる超百寿者についての観察研究で、慶應大学・新井康通先生が医学的観点からのアプローチ、東京都健康長寿医療センター研究所・増井幸恵先生が心理学的観点からのアプローチ、そして筆者がタンパク質の糖鎖修飾からのアプローチを紹介した。新井先生は、約 30 年にわたる百寿者・超百寿者研究の貴重なデータを用いて、慢性炎症とともに循環器系の維持がヒトの長寿に重要な役割を果たしていることを明らかにされた。限界寿命に迫るスーパーセンテナリアン達の医学・生物学的研究から「健康長寿の秘訣」が明らかになる日も近いと思われる。また増井先生は、超高齢者には、現実を受け入れ幸福感が高い「老年的超越」が認められることを示された。ヒトの健康長寿にとって、とても重要な「幸福感の高さ」や「精神的な健やかさ」を、どのようなアプローチで基礎老化研究が解き明かしていくのか、今後に期待したい。最後に、筆者が超百寿者の血しょうタンパク質糖鎖についての研究を紹介した。糖鎖が健康長寿のバイオマーカーとなり、糖鎖を介して健康な超高齢社会がもたらされることを目指している。

配信は、2 日にわたって同じプログラムをオンデマンド配信し、質問やコメントとそれに対する回答も WEB 上で公開した。数は多くはなかったものの、興味深い質問・コメントが集まり、WEB 開催でも十分有意義な質疑応答ができたものと自負している。尚、本シンポジウムは日本老年医学会の後援で開催された。



連絡先：三浦ゆり

〒 173-0015 東京都板橋区栄町 35-2

TEL：03-3964-3241

FAX：03-3579-4776

E-mail：miura@center.tmig.or.jp